

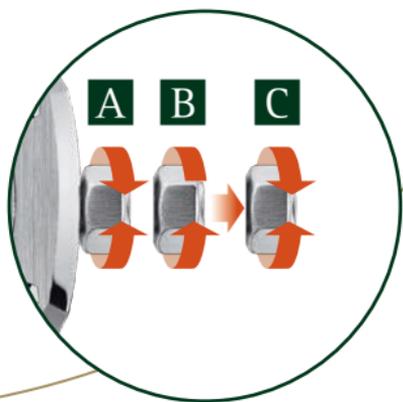
INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

SELFWINDING MOVEMENT

CALIBRE 3132

AUDEMARS PIGUET

Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス「日本語」をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。



目次

イントロダクション 160ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

時計について 164ページ

- 自動巻きキャリバー 3132
- ムーブメントの特徴

この時計について 172ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 174ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- 時刻合わせ時のテンプの停止
- ムーブメントの巻き上げ



イントロダクション オーデマ ピゲの マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、優れた金属加工の技術と新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、特にジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来この地域は少しずつ、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌していったのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1921年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追究しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄ツールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

時計について

自動巻きキャリバー 3132

マニュファクチュール オーデマ ピゲのマニュファクチュールキャリバー3132: 完全に手仕上げの自動巻オープンワークキャリバーです。二つのテンプを同軸で一つに組み立てた世界初の特許を取得したイノベーションです。

伝統と革新

マニュファクチュールであるオーデマ ピゲは、創業以来つねに自主性を守り抜こうと努力してきました。だからこそオーデマ ピゲはムーブメントの自社製作にこだわり、オーデマ ピゲ特製キャリバーを開発したのです。それらのキャリバーには、バランスよく配置されたブリッジ、手作業による仕上げ、構成部品の装飾などの中であって、ひときわ目立つAPのサインが刻まれています。均整の取れたエレガントなデザインは、横たわるテンプ受けによって一段と強調されています。

地板とブリッジの形状と薄さにより、ダブルバランスホイールが振動する様子をよく見ることができます。それはあたかも生命の証である鼓動のように、ムーブメントの中で息づいています。





自動巻きキャリバー3132

キャリバー3132は自動巻きです。手首の動きによって、時計が機能するのに必要なエネルギーが生じます。

このエネルギーは、22金製のローターに吸収され、歯車によってゼンマイに伝えられます。スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーは、コンスタントにムーブメントに供給されます。

時計をつけた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

ダブルバランスホイール

キャリバー3132は、ダブルバランスホイールによるデザイン的価値と優れた精度を持っています。テンプの軸の両側に配置された二つのスパイラルが相互に作用し、テンプの重心が常に軸上にあるようにします。

16個のマスロットのついた2つのテンプと大きな慣性により、このシステムは計時調整パラメーターの精度を向上させます。

ダブルテンプの組立と調整は非常にデリケートなものです。最新の製造技術、器用な手先と多大な集中力を必要とし、調整機構が最上の状態で作動するように仕上げられます。

時計について

ムーブメントの特徴

調速機構

■ 掛け渡し型テンプ受け ① :

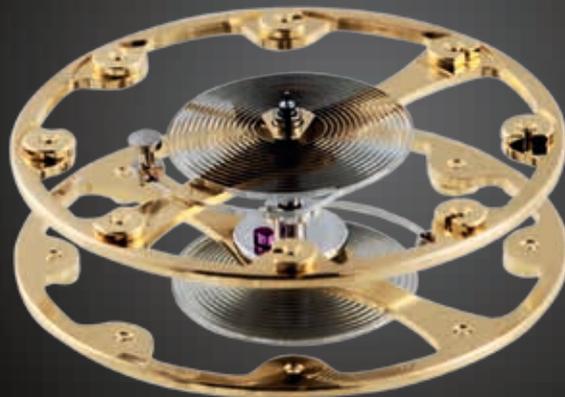
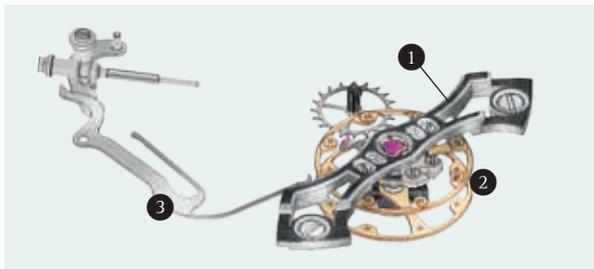
テンプの位置を正確に保ち、衝撃時の耐久性と高精度の歩度を保証します。

■ 16個のマスロット付変動慣性ダブルバランスホイール ② :

スパイラルの作動有効な長さを変えずに時計の歩度を調整することのできる16個のマスロットによる変動慣性モーメントのダブルバランスホイール。

■ 時刻合わせ用の秒針停止レバー ③ :

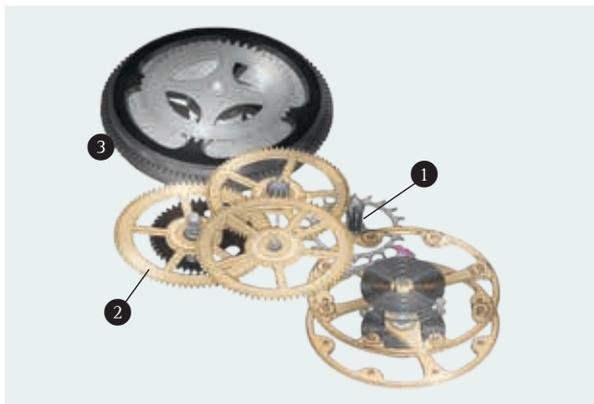
リューズを引き出すと秒針停止レバーが自動的に作動します。これにより秒針を瞬時に止めることができ、正確な時刻合わせが可能になります。



輪列機構

オーデマ ピゲの厳しい品質管理のもとに製造された輪列機構は、以下の基準を満たしています。

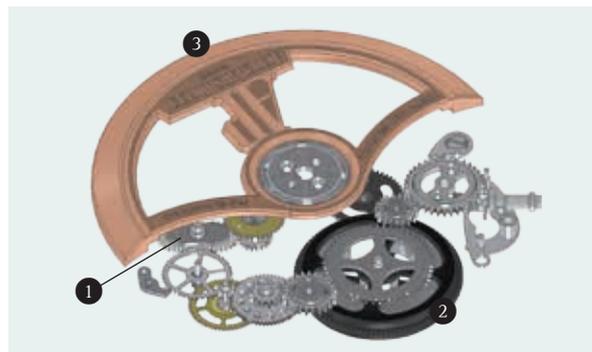
- カナは研磨済みです ①。
- ほぞとほぞ穴はバニシ仕上げ。
- 機能に影響のない歯車の表面はゴールド仕上げでサークル模様が施され ②、アームには面取り加工、エッジにはダイヤモンドポリッシングが施されています。
- 歯車の歯は構造面からも機能面からも完璧な歯の表の仕上がりを期すため、ゴールドプレート処理後にフライス加工が施されます ③。



自動巻機構

このキャリバーは以下の基準をクリアしています。

- 歯車とゼンマイへの摩擦を最小限に抑制。
- スピーディーな双方向への巻き上げ ①。
- パワーリザーブ45時間のバレル ②。
- セラミック製ボールベアリング上にセットされた22Kゴールド製ローター ③。



この時計について ムーブメント

キャリバー 3132



ケースバック側



ダイヤル側

ムーブメントの仕様

ムーブメントの厚さ: 5.57 ミリ

ムーブメントの直径: 26.59 ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動/時)

石数: 38

最小パワーリザーブ: 45時間

双方向回転自動巻

変動慣性マスロット使用ダブルバランスホイール

180度に組み合わせた2本のスパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 242

特徴

オープンワークムーブメント

時刻調整中は、テンプが停止（秒針の停止）

セラミック製ボールベアリング

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

ダブルスパイラル調整機構の特許保持システム

機能の使い方

時計の表示と機能

(図を参照)

- ① 時針
- ② 分針
- ③ 秒針

この時計は3つのポジションを有するリューズを備えています。

- A** ねじ込まれた位置のリューズ
- B** 位置 手巻き
- C** 位置 時刻合わせ

<注意>まずリューズを緩めてから作業を行い、作業後は防水性を保証するために再び**(A)**位置までしっかりと締めてください。



機能の使い方

時刻合わせ

必ずリューズを緩めてからご使用ください。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

リューズをポジション **C** に引き出します。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車かみあい が正確になり精度がより高くなります。

作業後は防水性を保つためにリューズを **A** 位置までしっかりと締めてください。

時刻合わせ時のテンプの停止

リューズを引き出すと秒針と同時にテンプも自動的に停止します。これにより正確な時刻合わせが可能です。

ムーブメントの巻き上げ

必ずリューズを緩めてからご使用ください。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

時計が停止した場合は、リューズを (**B** 位置で) 最低30回回転させることにより、巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

作業後は防水性を保つためにリューズを **A** 位置までしっかりと締めてください。

注意: 時計を腕に着けていない時、自動巻の巻き上げシステムは機能しません。最初の巻き上げの量によりませんが、パワーリザーブの残量最大の45時間までの間に停止します。

